

若手大工ら14人に修了証書

半年間かけ伝統技術学ぶ

県建設労働組合連合会の信州職人学校・伝統大工基礎コースと入門講座の修了式が11月12日、松本市の建労会館で開かれ、約14人に修了証書が授与された。

受けた講座は計25日・175時間に及んだ。伝統の技術を生かした新伝統構法への理解を深めながら、構造や強度などについても学んだ。実技では、仕口・継手の手刻みの技を身につけながら、総合実習として11月5日に安曇野市で開かれた全国民家フォーラムの会場で、建て方(木組み)を実演した。

修了式では修了証書を手にした修了生14人が、



伝統技術を修得した14人に修了証書が手渡された

「同じ志を持った仲間に出会えたことが最大の財産」「死ぬまでに1棟だけでも100年たっても建っている住宅(建築)に携わりたい」という目標が、立った同連合会の関勝執行委員長は「熟練の大工が極端に不足し、ニーズが高まる時代が来る。伝統技能を身につけるための努力はきっと報われる」と修了生にエールを送った。

なお、修了生は式の後、信州伝統大工2級(知事認定)の技能評価学科試験に挑んだ。11月19日に同審査試験が行われた。

柴原氏は「日本の林業の現状と未来」と題して講演。その中で、伊勢神宮の式年遷宮で「ご神木奉納」を手掛けたことや、平成21年に若田光一氏が搭乗したスペースシャトルに自分が製作した木曽ヒノキのうちわが持ち込まれ宇宙に行つたことなどを、貴重な経験談を披露した。

南木曾木材の 柴原氏が講演

松本で公開講座

県建設労働組合連合会は11月12日、伝統技術を継承する大工の育成を目指す信州職人学校(伝統

新建新聞 11月25日付



自身が製作しスペースシャトルに乗って宇宙を行った木曾ヒノキのうちわを紹介する柴原氏

が「できた」など、ひとりずつ思いを語った。あいさつに立った同連合会の関勝執行委員長は「熟練の大工が極端に不足し、ニーズが高まる時代が来る。伝統技能を身につけるための努力はきっと報われる」と修了生にエールを送った。

なお、修了生は式の後、信州伝統大工2級(知事認定)の技能評価学科試験に挑んだ。11月19日に同審査試験が行われた。

柴原氏は「日本の林業の現状と未来」と題して講演。その中で、伊勢神宮の式年遷宮で「ご神木奉納」を手掛けたことや、平成21年に若田光一氏が搭乗したスペースシャトルに自分が製作した木曽ヒノキのうちわが持ち込まれ宇宙に行つたことなどを、貴重な経験談を披露した。

柴原氏は「日本林業の現状と未来」と題して講演。その中で、伊勢神宮の式年遷宮で「ご神木奉納」を手掛けたことや、平成21年に若田光一氏が搭乗したスペースシャトルに自分が製作した木曽ヒノキのうちわが持ち込まれ宇宙に行つたことなどを、貴重な経験談を披露した。

柴原氏は「日本林業の現状と未来」と題して講演。その中で、伊勢神宮の式年遷宮で「ご神木奉納」を手掛けたことや、平成21年に若田光一氏が搭乗したスペースシャトルに自分が製作した木曽ヒノキのうちわが持ち込まれ宇宙に行つたことなどを、貴重な経験談を披露した。

柴原氏は「日本林業の現状と未来」と題して講演。その中で、伊勢神宮の式年遷宮で「ご神木奉納」を手掛けたことや、平成21年に若田光一氏が搭乗したスペースシャトルに自分が製作した木曽ヒノキのうちわが持ち込まれ宇宙に行つたことなどを、貴重な経験談を披露した。